

# 系統安定化装置更新に伴う 関西中国間連系線の運用容量見直しについて

---

中国電力株式会社  
2020年2月14日

- 第4回運用容量検討会において、中国地内の系統安定化装置（以下、中国基幹系SSC）更新時（2020年6月末予定）の電圧安定度維持を目的とした電制機能（以下、電圧電制）追加に伴う関西中国間連系線運用容量の増加については、60Hz同期系統内の同期安定度への影響を検討したうえで判断することとなった。
- 上記を踏まえ、関西中国間連系線の東向き潮流を電圧電制による増加分を考慮した運用容量上限まで流した状態で同期安定性を確認し、60Hz連系系統の同期安定性が連系線利用に対して制約を与えないことが確認された。（資料1-3「8. 60Hz連系系統の同期安定性」参照）

## 系統安定化装置による電圧安定度維持のための電源制限機能追加 p3

- 従来、**中国地内の500kV送電線故障時に同期安定度を維持することを目的に**、系統安定化装置（以下、中国基幹系SSC）による**電源制限を実施**
- 中国基幹系SSCの更新時（2020年6月末予定）に、**電圧安定度維持を目的とした電制機能（以下、電圧電制）を追加**することで、**中国地内500kVフェンス運用容量を増加**
- 関中フェンスを構成する送電線の一つである**500kV新岡山幹線**※故障時にも**電圧電制を行うため、2020年7月以降の関中フェンス運用容量を増加が可能である。**
- ただし、関中フェンスの運用容量増加に伴う**60Hz同期系統内の同期安定度へ影響を検討中**であり、**検討結果を踏まえて、関中フェンスの運用容量の増加を判断してはどうか。**

※現行、関中フェンスは新岡山幹線ルート断時の電圧安定度制約で運用容量が決定

